

熊本県防災センター

Kumamoto Disaster Prevention Center



▶ 防災センターの概要

低層階に災害対策本部やオペレーションルーム等の災害対策の主要な指令機能を配置するとともに、政府現地対策本部や自衛隊等の応援機関の活動室を新設しました。九州を支える広域防災拠点としての機能強化を図っています。

2F / オペレーションルーム

災害関連の情報などを一元的に集約するとともに、関係機関との情報共有を図り、救助部隊の活動調整等を行いながら災害対応を実施します。



豪雨対応訓練の様子

2F / 災害対策本部会議室

大規模災害発生時等には、知事をトップとする災害対策本部会議を開催し、迅速な災害対応を実施します。平時は会議室として活用します。



災害対策本部会議室

1F / 展示・学習室

熊本地震や令和2年7月豪雨をはじめ、過去に県内で発生した大規模災害の経験や教訓、災害発生のメカニズム、防災の取組みが学べます。地域防災の担い手育成や、児童・生徒の防災学習の拠点となります。



展示・学習室



プロジェクションマッピング(地震編・風水害編・火山編)

▶ 県央広域本部の概要

4/5F / 県央広域本部執務室



オープンで可変性のある空間にするとともに、フリーアドレスやワークスペースを導入しました。

また、庁舎内の無線LAN環境の整備や職員へのPHS配布なども合わせて実施することで、職員の働き方改革とDXを推進するとともに、組織の生産性向上を目指します。



ワークスペース

▶ 建物の概要

建物の有効活用と建設費の縮減を図るため、災害対応等の指令塔となる防災センターと熊本地震で被災した熊本総合庁舎・熊本土木事務所(県央広域本部)を、合築により整備しました。

1 県民の安全・安心を守る庁舎

大規模災害に耐える庁舎

基礎免震構造とPCa(プレキャスト鉄筋コンクリート)構造により、大規模地震発生後直ちに災害応急対応の活動ができる環境を確保します。

また、設備のエネルギー源の多重化等、復元力(レジリエンス)に優れた庁舎となっています。



免振装置



非常用発電設備



ヘリポート

災害に備えたライフライン等の確保

災害により電力や給排水等のライフラインが途絶した時にも、最低72時間は災害対策を継続できるよう、非常用発電設備、鋼板製一体型受水槽、緊急排水貯留槽等を備えた庁舎となっています。

また、屋上にはヘリポートを整備しています。

2 人と環境にやさしい庁舎

ユニバーサルデザインへの配慮

シンプルでわかりやすい空間構成にするとともに、各階ごとに色を割り当てた「フロアカラー」を取り入れ、案内板には視認性を高めるゼブラ模様を導入しました。

また、地上各階には思いやりトイレとオストメイト対応トイレを設置したり、避難時における車いす待機スペースを確保するなど、ユニバーサルデザインに配慮した庁舎となっています。



思いやりトイレ

ゼブラ模様を取り入れたサイン

環境と共生する庁舎

卓越風を使用した自然換気、自然採光の積極的な活用等、熊本の自然の恵みを有効活用した庁舎となっています。

また、LED照明のほか、無電源自動ドアや地中熱による空調設備を導入する等、省エネルギー化に配慮しています。

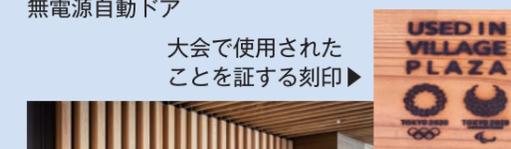


無電源自動ドア

木材の活用

快適な空間づくりと地球温暖化防止につながるよう、庁舎内の壁や床、天井には木材を活用しています。また、1階の展示・学習室の壁面などには、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会選手村ピレッジプラザに使用された県産材を大会のレガシーとして再利用しています。

壁や天井の一部には、くまモンが隠れていますので、ご来庁の際には是非探してみてください。



大会で使用されたことを証する刻印▶

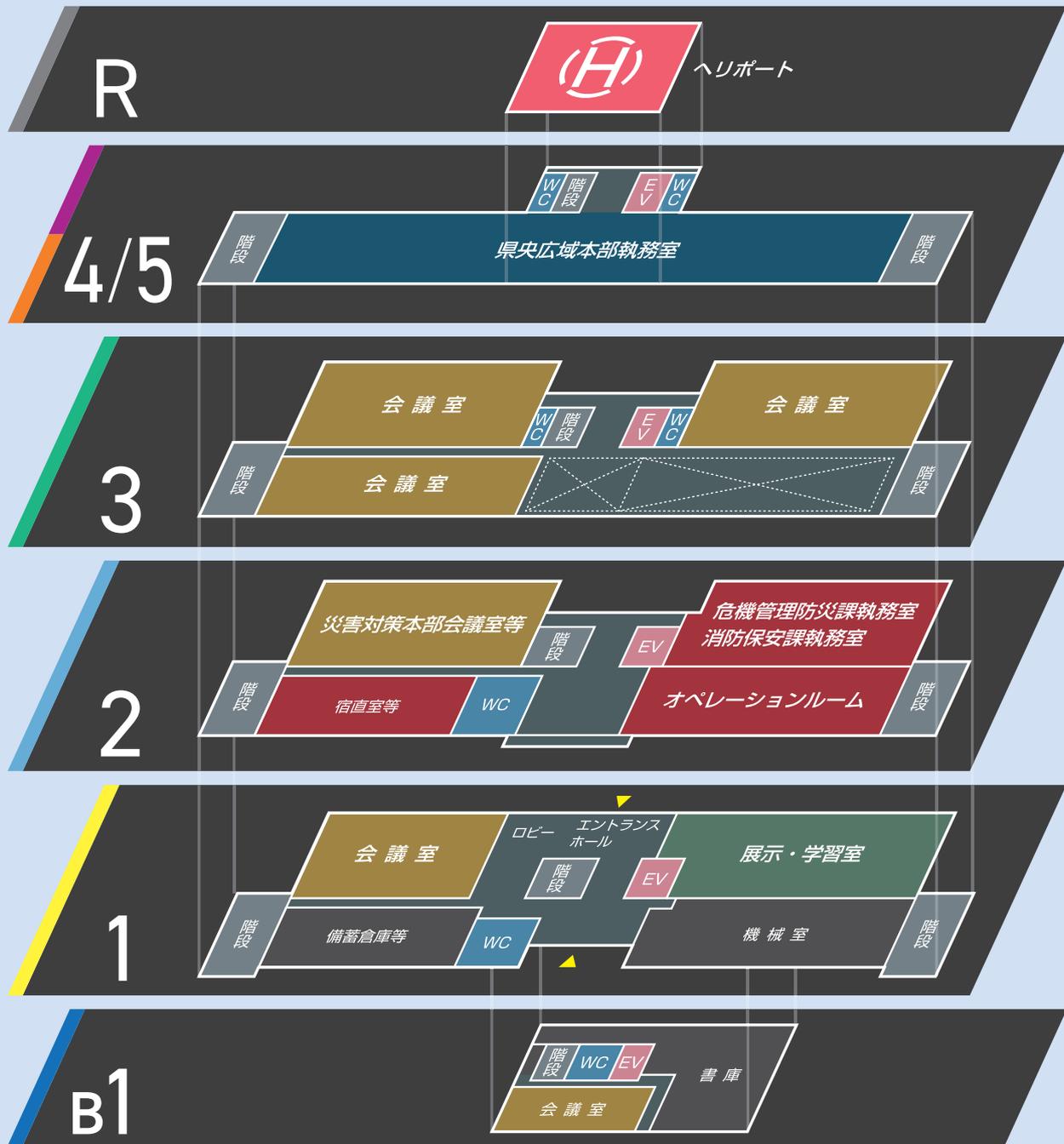


木材を活用した壁面

ボクを探してほしかモン!



各階配置図



※大規模災害時、会議室は関係機関各省庁、自衛隊、消防、医療・インフラ分野の活動調整室や記者会見室等に転用します。

建物の規模

設計／平成30年11月～令和2年5月
 工事／令和2年12月～令和5年3月
 構造／鉄筋コンクリート造(免震構造)
 階数／地下1階、地上7階

事業費／約97億円

建築面積／2,560㎡

延べ面積／9,970㎡

【内訳】 県央広域本部／7,333㎡
 防災センター／2,637㎡※
 (※大規模災害時／6,648㎡)

【企画・発行】

熊本県総務部総務私学局財産経営課

〒862-8570 熊本市中央区水前寺六丁目18番1号

TEL.096-333-2088